

湊屋だより

ホームページ <http://www.minoji.minatoya>

平成 29 年 12 月号

No. 40

街並みは何処

ウイークデー（水曜日）に来た女性客が開口一番に発した。

『街並みはどこですか？』『……………』『観光案内所で聞いて、乗り合いバスで行く方法と湊屋を紹介してもらいましたけど。』遠路はるばる松本からである。

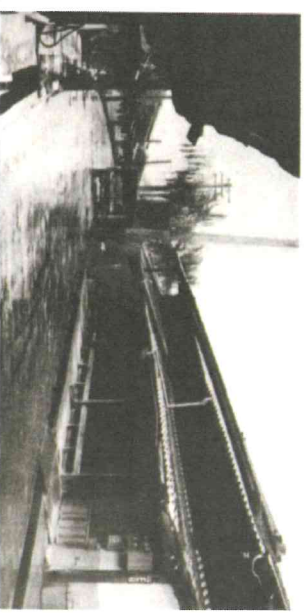
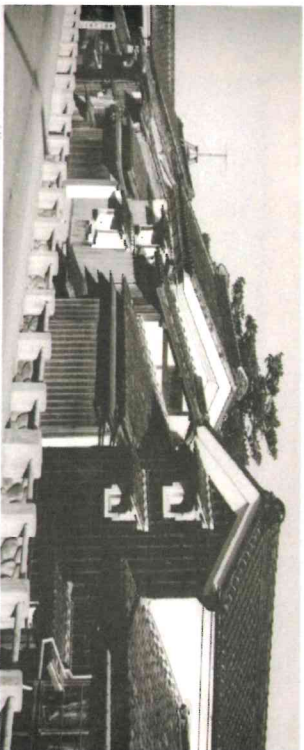
この客はインターネットで美濃路を検索して、馬籠・妻籠の街並みを想像して来たらしい。『この通りが起宿です。』と答える私に期待を裏切られた表情になった。

『申し訳ございません。ご期待に添えなくて…。』としか返事が出来ない私であった。

熱い時でもあった。かき氷を飲んで一息入れ、カシューどんを賞味しつつ私との会話が続く…。古民家湊屋への姿整、今後の夢と願いを彼女に言い合いに説明したら、心良くして本日の収穫は大島八重子に会えたことだと言った。とても笑顔になって頑張って下さいとの応援をいただく。

この女性客に限らず、いろいろな地方からこうした歴史ある日本の風景を求める来客が数を増していく。その流れにスピードの遅すぎる起の宿場街道の現状をなげく私である。

～昭和 20 年代の美濃路～



台風と湊屋

当節の台風は、大雨での被害が多くて強い風でのゆれ等を感じることが少ない。風速 40 m 強の風は屋根瓦を飛ばし看板と大木をも倒す。その強風が湊屋を直撃したら、いかなる事態に展開することであろう。

雨漏りは申すに及ばず、建物南側のガラス戸の被害はどのようになるのであるだろうか。雨戸の現状は一度も点検をしていないから、使用可能なのであるうか。と同時にそのガラス戸はアルミサッシではないから心配になる。決してアルミサッシを希望しているわけではない。想い始めたらあそこもどこもどうしましょう。

自然災害の少ない尾張平野であるとは言え、油断は許されない。必死の気持ちで、重い歴史を持つ湊屋を守らねばならない。季節は冬に進むしばらく台風は来ない。ヤレヤレ…。

方法

14代将軍徳川家茂が大坂に出陣した。不幸にもその土地で病死する。

将軍様を大阪で葬ることが出来ないの遺体は江戸まで運ばねばならない。

江戸までの搬送方法はどのように…。現代のような道路・鉄道に無い時代。おまけに冷蔵技術は皆無。その方法において苦慮を強いられる。

歴史民俗資料館の宮川学芸委員の説によると、確たる方法は解らないけれど塩蔵の方法が取られたであろうとの見識であった。なるほど…。当初その遺体は美濃路の通行が予定されたけれど、その後変更があり、陸路でなく水路を介して運ばれている。

ついでに聞いた話であるけれど、源義経の首は酒漬け、武田信玄は香草漬け。清の始皇帝はくさやの類の匂いで隠した。外国においては、イギリスの海軍提督ネルソンはワイン漬け。ネルソンと言えば神様のようにあがめられていた人物。ワイン樽に、ストローを注し、下僕達が飲んだ為、遺体が着いた時には、ワイン樽は空っぽだったとか…。